

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和3年12月15日(水) 開 会 午前 10時30分
閉 会 午後 12時30分
2. 会 場 玉川小学校
3. 出席者 市長 今井 敦 教育長 山田 利幸
職務代理者 矢島 喜久雄 教育委員 永嶋 陽子
教育委員 勅使川原はすみ 教育委員 若御子雅英
出席職員 玉川小学校長 守屋 修介
こども部長 有賀 淳一 生涯学習部長 北沢 政英
こども課長 五味留美子 幼児教育課長 柳澤 澄子
学校教育課長 五味 正 生涯学習課長 田中ひろみ
文化財課長 五味 健志 スポーツ健康課長 伊藤 善彦
企画係長 伊藤 俊成 行革・デジタル係長 矢島 知紀
教育総務係長 春日 雅彦 教育総務係主事 牛山 紘貴
教育総務係主事 小池 智也
4. 傍聴者 10名

茅野市総合教育会議次第

令和3年12月15日（水）午前10時30分
玉川小学校 視聴覚室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 学校におけるICT機器を活用した学習状況について

(2) 今後のICT教育の課題と展望について

(3) 特別支援教育支援体制の状況について

4 その他

5 閉 会

○学校教育課長

只今から、茅野市総合教育会議を開会します。
はじめに、今井敦市長からあいさつをいただきます。

○市長

皆さんこんにちは。お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。コロナ禍が続いていましたが、学校へ来ると子どもたちは本当に元気にやっていて、何となく安心しました。

本日は、玉川小学校にお世話になりながら授業を参観していただき、その後いろいろご意見をいただければと思っています。

これからの茅野市の教育に関わる大変重要な会議となりますので、よろしくお願い申し上げます。ごあいさつに変えさせていただきます。

○学校教育課長

以降の議事に関しては、今井市長に進めていただきます。

○市長

はじめに、ICT機器を活用した学習、特別支援の状況について、授業参観をしていただきます。参観についての説明を学校教育課長お願いします。

○学校教育課長

お手元に、各教室で行われている授業の一覧をご用意しました。どの教室でも参観していただけます。一覧の右から2番目の支援員の欄については、特別支援教育支援員が支援に入っている教室になりますので、ICTを活用した授業と合わせ参観ください。

2枚目には、各教室の配置図をご用意しています。左下の青く囲っている部分が、現在地の視聴覚室です。赤い丸は、来校していただいた玄関になりますので位置関係を参考にご参観ください。

3枚目以降は、各クラスで行っている授業の内容になりますのでこちらもご参考ください。本日のICTを使った授業につきまして、守屋校長からご説明させていただきます。

○玉川小学校長

ICTを使った授業を見ていただけるということで、各職員が自主的に授業の概要を作ってくださいました。

ICTの利活用を特に考え、今年度からGIGAスクール構想で1人1台タブレットが用意されましたので、学校としてはタブレットを文房具のように使えるようにしたいと考えています。

現在、鉛筆・ノート・教科書などの紙ベースで学習していますが、今後は紙で学習することも大事にしつつ、それとあわせてタブレット・デジタル教科書等を活用しながらの学習を進めてきています。これはもちろん、一番は子どもたちの力を伸ばしたい。わかる授業をしたいということが一番の願いです。

また、タブレットを活用することで個に応じた指導ができることも大きな特徴となっています。

デジタル教科書について、算数・英語・理科・社会については、教師用のデジタル指導書を使用しており、算数については文科省より無料の教材が提供されているものを活用しながら子どもたちの力を伸ばす授業に取り組んでいます。

それぞれの授業については、資料を見ていただければと思いますが、1番の見どころとしては、ロイロノートというソフトを使い、子どもたちが今までノートに書いていた自分の考えを、タブレットへ打ち込み、大きな黒板で1人1人の考え一覧にして考えを共有できることです。

2年生以上の児童には、タブレットへのローマ字入力ができるように練習しています。

2年生はローマ字を勉強していませんが、将来的にはローマ字の入力が必須になっていくので、ローマ字表を見ながら入力の練習をして大分できるようになっています。また場面があったら見ていただければと思います。

我々は、昔から紙に書くことを当たり前に感じていますが、中には書くことに関して大きな抵抗がある子どももいます。特に今日参観いただく特別支援学級の子にその傾向がありますが、その子どもが、タブレットで文字を入力していくうちに、嫌いだった作文が大好きになったということもありますので、タブレットを使った学習は本当に子どもたちの力、今まで見えなかった子どもたちの力を伸ばせるなど感じているところです。

2年生以上は、すべてがICTを使った授業ではないですが、基本的には机の上にタブレットがあるようにしていますので、お気づきの点ありましたらお教えてください。

なお支援員についても少しお話がありましたが、特別支援学級に支援員がついていることが多いです。

知的障害児学級の中には、本来ならば諏訪養護学校の入学が適なお子さんもいます。そのようなお子さんには支援が必要なので支援員がついていますし、教室から飛び出してしまうお子さんもいますので、すぐ対応できるように支援員を市から配置していただいている現状がありますので、その辺りも見ていただければと思います。

さらに、玉川小学校には市からサポートルームを作っていただいています。教室には入れないけれど、学校には来れるお子さん、あるいは算数だけ苦手なので算数の授業だけサポートルームに通うお子さんもいます。教室の授業をライブ配信して、ZOOMを使いサポートルームと一緒に授業に参加している子どももいます。

現在個別最適な学びということを言われていますが、これがその1つの姿かなと思います。ぜひそんな姿も見ていただきたいのですが、あまり周りを取り囲むように集まると、子ども達はとても不安になってしまうので、配慮をよろしくお願いします。

○学校教育課長

授業参観は、三校時の10時45分から11時30分までとなります。

11時35分から議事を再開したいと思いますので、それまでにこちらにお集まりください。

○市長

ただいま説明がありましたが、ご質問ありましたらお願いします。

○全委員

なし。

○市長

参観をお願いします。

~~~~~授業参観~~~~~

○市長

議事を再開します。皆様には、ICT機器を活用した授業と特別支援の状況をご覧になっていたと思いますが、この2つの項目についてそれぞれ感想ご意見をいただきます。

はじめに、ICTの機器を活用した授業を見ての感想・ご意見を勅使川原委員お願いします。

○勅使川原委員

今日は1年生のクラス、自習をしているクラス、工業問題を扱っているクラスを中心に見せていただきました。

自習しているクラスでは子どもたちは機器に慣れていて、静かに自習をしていました。自習のクラスを参観した理由としては、長期休業や体調を崩し学校を休んだりした際に、この機器を使って家庭内で勉強することがちょうど自習と同じような環境だと思ったからです。

それを踏まえて自習を見ていると、子ども達が長い期間登校できない状態であってもある程度の形はできていくと感じました。

たまたま私にも孫がいて、けがをして少し休んだときにもこのような使い方ができたらいいなと思いました。

また、他のクラスを見ている中で、画面に向かって機器としては使えるけれど、静かな自習をしている時と同じような個の授業をしているなど感じたクラスがありました。そのような授業と対比して先生が機器にとっても慣れていて、大画面で子どもたちの共通の画面を活用していく中、児童に発言を促すとてもスムーズで楽しげに授業をしていたクラスが5年生のクラスがありました。先生の機器への慣れが子どものこれからの授業に比例していくのではないかと感じました。

○市長

若御子委員お願いします。

○若御子委員

本日は、貴重なお時間をいただきありがとうございます。

私も、学校でのICT活用を見るのは初めてでしたが、私には小学校5年生と中学2年生の娘がいて、たまにタブレットやパソコンを持ち帰り何かやっているなということは知っていましたが、実際にどのように使っているのかが今日の見学でよくわかりました。

先ほど勅使川原委員も仰ってましたが、うちの子も少し学校を休む機会にパソコンを持ち帰り、先生とつながりながら家でリモート学習ができることは良いことだなと感じました。

また、6年4部の「自分の追求したい内容」という授業を見学した際には、後ろの席の児童がExcelで関数を使いこなしている姿がありました。いずれ社会人になれば、オフィス等は絶対に必要となりますので、小さいころから慣れ親しむことで将来は必ず役に立つと感じました。

いずれにしてもよい取り組みかと思いますので、さらにこういった取り組みが進んでいけばいいなと感じました。

○市長

永嶋委員をお願いします。

○永嶋委員

私も久しぶりに学校全体を長い時間様々なクラスを見せていただいて、とても嬉しく思いました。

どうしてもコロナの関係でなかなかこのような時間が取れなかったと思いますが、初めに校長先生はタブレットを文房具のように使っていきたいとおっしゃっていて、その視点で見ると一年生は日も浅くまだまだな部分もありましたが、2年生以上の皆さんは、それぞれの年に合わせて使えてきている印象でした。また、中には若御子委員がおっしゃったように、とても使いこなしている子どももいて、大人が考えているよりもこの1、2年でずっと進んだなと思いました。これは、1人1人の子どもにタブレットを整備していただいたおかげだと思います。

ただ、せっかく学校へ来ているということで、一人ひとりが使いこなすだけでなく黒板もきちんと利用して今日の授業、今までの授業、次の時間の展開などをきちんと黒板に書かれている先生もいらっしゃいました。

さらに、1人1人が友達の意見を見るのではなく、大きな画面をみんなで見ながら先生も一緒にお話をされている。という場面はとても素敵だと感じました。

校長先生がおっしゃったようにタブレットというよりも、図書館が一人一人のところにあるというくらいに、使うようになればすごくいいなと思いましたがただ一つ、保護者の皆さんにもご理解いただければ、学校でやったことが家庭でも楽しめると思います。親も一緒に新しい知識を学べるということは大切かだと思うので、今後どのように家庭にこの状況を知っていただくかが重要になると思います。これは、玉川小学校だけでなく茅野市全体、市単位の知識量での活動が大切になっていくと思います。

○市長

矢島委員をお願いします。

○矢島委員

トイレで子どもたちと話し込んでしまい少し遅れてしまいました。タブレットを扱うことについて子どもたちの声は、最初はやはり難しかったが、今はもうスラスラと言っていました。想定していた以上に子ども達が機器に慣れていて、良い道具として使っていると実感しました。

さらに、どの授業を見ても、先生方は何の抵抗もなく授業をされていることはありがたいことだと思いました。

私の今までの授業開始のイメージとすれば、最初に学習プリントを配ることが当たり前でしたが、プリントを送るところから始まっていて、もうこんなにもう進んでいるのかと思わされました。

一方で、2年生の算数の授業でタブレットを使わない時に、すべての子どもが端末を裏返して先生の方を見ていました。こういったマナーもしっかりしているなと思いました。

私が知りたい事ですが、今5年生はインターネットで検索をしていましたが、インターネットがすべて正しいわけではなく、インターネットやSNS等での犯罪が話題になっていますので、そういったインターネットの使い方や家に持ち帰った際の親のマナーも少し心配だと感じました。

本日は、茅野市のICT教育を生で見せていただき感謝します。

○市長

授業参観を通して、様々なことを感じていただけたと思います。

茅野市は早い段階からICT教育に力を入れその分先生方もご苦労されたかと思いますが、他市町村と比較しても少し先を行けているのではと認識しています。ただ、これからも日進月歩取り組んでいきます。

先ほど矢島委員がおっしゃられたインターネット等の活用の仕方の現状について教育長から説明をお願いします。

○教育長

資料1をご覧ください。茅野市教育委員会のサポート体制についてです。資料の真ん中の箇所になりますが、地域・家庭における情報モラル向上とセキュリティの確立ということで、ICT教育推進計画に基づく中で、情報リテラシー、情報モラル、家庭のモラルを向上させていきます。具体的な活動として子どもたちは、各学校の計画に沿って年に数回研修を行います。さらに保護者対象の研修会をコロナの感染状況を見ながら行いたいと思います。

LINEやSNSで子ども同士が何を書いているのかがこちらからは見られない、何が起きているのかわからない現実です。子どもたちの中から「先生こんなこと書いてあったよ」というような情報が入ることもあり、ただ気を抜くことなく取り組むと同時に、ICTってこんなに使い方ができるという気持ちを延ばすことで、模範的な使い方を目指していきたいです。

○市長

この問題は、学校教育の範疇から少し超える部分になっています。これはむしろ大人の教育が必要で、子どもの方がちゃんとしているという部分はあろうかと思いますが、やはり何か対策をしなければいけないと感じています。

今までを通しての一言を教育長よりお願いします。

○教育長

委員の皆様今日はありがとうございました。最初に、今日計画するにあたって実際の姿を見ていただいた方がよく、ついでには学校をどこにするかという時に大規模校である玉川小学校に強気に立候補していただき、ありのままの姿を見ていただきました。本日は自由に参観していただき、様々な点が見えたと思いますので、またご意見ください。

資料1の茅野市の児童生徒が目指すICT教育の学びの姿と教育委員会のサポート体制の表をご覧ください。これは、県教育委員会の考え方をかなり参考にして、茅野市バージョンで少し変えてあります。ビフォー・コロナの時は習得する力。ウィズ・コロナで自立して学ぶ力。アフターコロナは探求していく力と発展していくように分けています。そして、去年の5月に県教育委員会からこの原案も出たその際に、県教委の方はかなりハイレベルなので本当にやっていけるのかをお聞きしました。私もここまでいかなければならないと考え、4月からスタートさせました。

ビフォー・コロナの時、2年前まではとにかく答えを導く授業、先生が黒板の前に仁王立ちして、あるいは子ども同士で追及する場面があっても一つの答えを求める授業でした。そして、現在取り組んでいるのは子どもたちが自立していく力を延ばす授業です。先ほど勅使川原委員や永嶋委員がおっしゃいましたが、普通の授業は、先生と子ども達の協働的な授業をするという原則は外してはいけないと思います。

それと同時に、地域や家庭とどのように繋がっていくのかが永嶋委員が言われたことに繋がると思います。

子どもたちの学びをさらに核にして親の学び作り出していきたいと思います。また実際にコロナの休業の際には、公民館、コミュニティセンターをお借りする中で、サポートとしての授業やいわゆる寺子屋スクールを意識的に取り組んできました。

そして最後の目標が探求する力です。意識的に目指していきたいと思います。今、それぞれのクラスによって違いますが、資料のグラフだとどのくらいに到達しているか、という見方もできます。その中で、2年生の先生が6×3や3×8の計算をタブレットを使って復習されていました。見た当初は、タブレットを使う必要はないだろうなと思って見ていましたが、ICTを使いパッとやわらかく済ませることで、子どもたちに問題を解けない負担を和らげ、明るさが生まれていました。そういう先生方のささやかな工夫を大切にすべきで、完璧な授業をやるのがすべてではないと感じました。

資料1の茅野市教育委員会のサポート体制で、一番大事なものはICT教育推進計画の改定版になります。この中で4つの柱があり、それぞれ授業改善とICT、プログラミング教育の推進、特別支援教育におけるICT活用、オンラインによる学習の充実です。

特別支援教育については真っ先に平成29年に取り組み始め、大型テレビとタブレットが特別支援学級にすべて配備されました。

そして、GIGAスクールの中で今日を迎えているわけですが、私は茅野市のICT教育は、少しは自慢できると思います。文科省のGIGAスクール構想は今年の4月全員のタブレット配布でスタートしましたが、茅野市の場合は、平成30年に3人に1人の割合でタブレットを配布し、準備を進めていたからです。ただ3人に1人なので、去年の3月4月5月の休校の際にはタブレットを配布することは、不公平になってしまうのでできませんでした。平成30年に3人に1人で配備したというところに出発点があり、そこからの経験が力になっていると思います。

そしてこの4つの柱のもとに、1番目サポート体制の確立から、8番まで具体的な方策があります。特に8番の情報モラル・セキュリティー、先ほど矢島委員が言われたことですが、そこにいわゆる主権者教育につながるものとして、デジタルシチズンシップの向上があり、先日の議会でも出していた問題になります。ICTを使う中で市民意識を向上していく新たな教育に取り組んでいきたいと考えています。

#### ○市長

教育長よりいただいた説明含めてご質問、ご意見ありましたらお願いします。

#### ○勅使川原委員

茅野市の情報ICTの関係は、リテラシーの関係も含めて他市町村と比較して早めに取り掛かっているのので、今回の授業を見ても子ども達はきちんと学習していると感じました。

今日の授業を見た際に、ある授業は資料1にある探求する力まで到達しているほどの授業をしている先生もいらっしゃいました。やはり先ほどから言うように、この機器を使い授業として成り立たせていくためには、先生たちがどのくらい慣れて、使いこなし、良さを出していくかだと思うので、今後ともお忙しい先生たちですが、研修をしていただくことが大事かと思います。

子どもたちは、機器の操作や検索した情報を引き出したりすることも本当に上手にやっていたので、あとはどのような授業につなげていくかだと思っておりますので、先生たちよろしく願います。



あとは同じように、この情報を使ってより良い使い方をしていくことを含めて、モラルの関係を並行して取り組んでいかなければならないと思います。これに関しても、他の市町村に比べて積極的に取り組んでいると思います。この計画の中にも入っていますが、後になって大きな問題にならないよう、実態を押さえつつ指導していくことが一番大事なことだと思います。

○市長

その他ありますか。

○教育長

今現在勉強の面でICTを使っていますが、子どもたちが自分の生活を自分で見つめていく、先生たちが生徒指導的な扱いで自分自身の心を見ていく第2の使い方、新たな使い方を現在模索しています。まだ、そのような取り組みをした市町村はないですが、日本生徒指導学会会長の八並先生を軸とした力のある先生と、NECと茅野市がコラボし現在茅野市の学校2校で試験的に運用を開始して実績を積み上げているところです。また次回何かのタイミングでしっかりご説明します。

子どもたちが自分の心の状態を毎日つかんでいくことを目標としています。コラボ先より、専用のタブレットも貸していただいて運用しています。

○市長

他にありますか。

勅使川原委員お願いします。

○勅使川原委員

自分の孫が学校を休んだ際の対応で感じたことですが、学校での朝の会等はTeamsを使っているとありますが、子どもは自分で立ち上げて先生から呼び込まれるのを待っているのですが、たまに先生がそれを忘れていた時があります。子どもは真面目なので、ずっと待っていてとても切ない思いをしているので忘れないでほしいです。

もう一つは、家庭でタブレットを使って学習をする際に、保護者の方が学習の状況を確認できるように、授業参観の時などに立ち上げや接続の方法を習得してもらった方が良いと思います。

○市長

いただいたご意見を今後に生かしていければと思います。

全体的なご意見として茅野市は若干早めにICT教育を始めていますが、今、他市はどのように授業に取り入れていくかというところで、ご苦労されているという話を聞いています。その部分を茅野市としてはある程度乗り越えて、今日も違和感なく授業の中で使っている様子を見ていただいたと思いますし、また、支援学級の方々の活用も見ていただきましたが、いずれにしても茅野市や先生方が一生懸命努力してこういった形を構築していますが、そのような先生が他の学校へ異動してしまう問題がありますので、その流れをどのようにしていけば良いのかを県教委とある程度話をしていかなければいけないと個人的に感じています。ICT教育を先駆けて行うことはとても良いことで、ノウハウを持った先生が全県に展開していくこともとても良いことだと思いますが、県としても県教委としてもある程度意識してバランスを保っていくべきだと感じています。

次に、特別支援の状況について各委員より一言ずつ感想をお願いします。

○矢島委員

支援員が配置されている玉川4のクラスを見せていただきました。

子どもたちが1人でタブレットに向き合う授業と、支援員が隣に付き話しながら向き合う授業とでは全然違うことがわかりました。支援員が付いていないお子さんは、だんだん集中力が無くなっていき、支援員が付いているお子さんは、とても楽しそうに授業を受けて担任の先生は集中が途切れたお子さんに注意を促す対応していました。このような余裕を持った対応ができるのは、個別に支援員が付かれているからだと思いました。

結論的に言うと、昨日もお子さん方の支援の状況や判定をする会議がありましたが、支援を必要とする子どもがとて多くなっている現状にありますので、1人でも多く支援員をつけていただければ、こんなにも教育の効果があるのかということを感じました。

○市長

永嶋委員お願いします。

○永嶋委員

私は、玉川1部2部を見させていただきました。「お正月の飾りを作ろう」ということで、手に絵具を塗って、だるまのような形をイメージして顔も書いていくという内容でした。

子どもたちは何人もいましたが、支援員や先生方がきちっと入っていて、子どもたちが困ることがないように授業されていました。

手を汚すことが嫌いな児童には、足形を提案するなど新しいことを提案してチャレンジされていて、児童は1人1人違うので、1人1人個別に配置というわけにはいかないとは思いますが、少しでも楽しく日々を過ごすためには新しい提案をすることはとても大切なことで、子どもの生活が広がると思うので、支援員の配置はとても良いことだと思いました。

私は、支援員からは外れてしまいますが、ことばの教室も見させていただきました。たまたま入った際に1人の女子児童が、タブレットを使いながら先生と様々な話をされていて、自分の記憶や将来の夢なども先生が引き出していたので、いろいろな先生方のアドバイスや支援があることには感謝しています。お金の問題だとは思いますが、さらなる増員をお願いします。

○市長

若御子委員お願いします。

○若御子委員

私は、1年3部のクラスを見させていただきました。通常のクラスだと思いますが、後ろの席の児童が急に知らない大人が入ってきたので、床にうずくまってしまったときに、支援員だと思われる方が、寄り添いながら気持ちを落ち着かせていました。

先ほどもお話ありましたが様々な児童がいますので、児童に一番良いと思われる環境で授業を受けることが良いと思います。しかし、通常クラスで先生1人では、先ほどのような対応は大変になりますので、他の委員の方もおっしゃる通りお金もかかる話ですので、なかなか支援員を増やすことは難しいところもあると思いますが、1人でも多くの支援員を配置することによって普通教室がふさわしい児童には普通教室で受けられる体制を整えていただきたいと思います。

いずれにしても支援員が配置されていることで今の授業が成り立っていると感じました。

○市長

勅使川原委員をお願いします。

○勅使川原委員

玉川3部の自情障教室を見せていただき、様々な障害を持っていて学年もバラバラな児童たちが一緒に授業を受けている状況で、とても先生の力量が問われる環境でみんなしっかりと落ち着いて授業を受けていて、支援員が1人配置されているとはいえ先生はすごく力を持っているなど感じました。そういう先生は、家庭とのやりとりもしっかりとできていると思います。

支援員は、障害を持った児童の特性を生かすことはとても大変なことなので、1人1人に配置しても良いと思います。

情報教育を進めていく中では、操作のスピードについてこられない子どももでてくるため、授業一覧に○がない情報支援員の配置が情報教育を進めていく中で必要になってくると思います。

先ほどから皆さんがおっしゃっていますが、自情障の子どもたちは様々な個性を持っているので、支援員がいればいるほど子どもたちが学校に来やすくなるということを感じました。

また、支援者の増員等は、県や県教委などの上に向かって声を出せないのかと感じました。

○市長

今のご意見も踏まえて教育長より現状説明をお願いします。

○教育長

まず初めに、ICT教育サポートセンターについて学校教育課長よりご説明をお願いします。

○学校教育課長

今現在ICT教育サポートセンターで支援員を6名配置しています。

河西先生をはじめ、元SEの方、元システム担当の方、ウェブデザインをされている方や元教員という多彩な方に、学校のICT教育について中学校区ごとに家庭・子ども・先生方の支援をしていただいています。

○教育長

学校のホームページアップがされ始めていますがICT支援員の中にプロがいて、かなり手伝っていただいています。

特別支援の関係は、どれだけやっても完全ではなくこちらはまだまだと感じ、辛くなる思いです。

ただ、一番考えなければいけないことは、標準の子どもを自分たちの頭の中で思い描き、その子どもを中心にできる、できない、を考えて教育をすることではなくて、すべての子どもが教育の中で平等な体制を作るということです。

現在の状況ですが、通常と言われる普通学級の中で、発達障害の診断を受けている児童生徒は小学校で約50名、中学校で約20名、そして診断は受けていないいわゆるグレーゾーンで何らかの支援を必要としている児童生徒が小学校で240名、中学で50人弱です。合計すると、小学校で約290名、中学校で120名近くの子どもの支援を必要としています。その上で、特別支援学級では、小学校で特別支援学級に入級している子どもが93名、中学校で41名という数になっています。文科省からは、約6%の子どもは何らかの障害があるという報告があります。

資料2をご覧ください。インクルーシブ教育～すべての子どもたちの学びのために～とあり

ますが、教育委員会としてのサポート体制の1つは特別支援教育支援の配置です。今年度は、約42配置していますが、市にはとても無理していただいております、他の市町村の数倍は配置されていると思います。

もう1つは育ちあいちのです。この中には専門家が市で持っている発達支援センターを含めて17人います。

さらに指導法・指導体制はこども課と学校教育課で担当しますが、支援員と育ちあいちの、指導法指導体制のための学校教育課という3つのトライアングルで、インクルーシブ教育を目指しているところで、不十分さはまだありますが、これからさらに頑張っていきたいと思えます。

その上で、育ちあいちのが持っている医療機関や児童相談所との繋がりを大切にしていきます。

学校教育課の方では、県や外部機関とつながりというところで、力を発揮していきます。

また、特別支援教育支援員の配置、育ちあいちの、指導法・指導体制の3つのトライアングルだけではなく、子どもたちが自分の多様な学びの場を自分で作っていかうという考えの中で、コロナで実際2年間、なかなか進みませんでした。夏休みの課外講座に何回か出席する中で自分の個性を出していく、今年は八ヶ岳総合博物館で講座をやりましたが、約290名の子どもが参加しています。さらに縄文考古館での教科を離れた学習や公民館等の活動があります。

今後、プログラミング教育についての講義も開講する予定で、子どもたちの多様な学びの場づくりという面も考えていきたいと思えます。

ただどこまでやってもきりがありませんが、ご理解とご協力、ご意見をお願いします。

#### ○市長

サポートルームなど茅野市独自の取り組みを行っていて、行政としても精一杯取り組んでいますが、まだまだ不足という意見をいただき、すべてのニーズにこたえることは難しいですが、しっかりと体制作りをしていきたいと思っています。

学校教育から生涯学習関係も絡むような学校の課題も出ましたが、様々な特徴を持った子どもたちが夏休みの宿題などで博物館等を利用して全体としての仕組みづくりも今後、公民館や博物館とうまく連携して作れればと考えています。また生涯学習の場では、大人も巻き込んだ活動になれば良いと思えます。

以上のような夢・目標を抱いていますがご意見、ご質問ありましたらお願いします。

#### ○矢島委員

最後に話された多様な学びの場づくりに関して、私は夏休みに公民館の子ども講座を覗かせていただいた際に、講師は大学の先生は大学の内容で授業をしていましたが、子どもたちは大学の授業について行っていません。私たちが後ろで聞いていても理解できないような内容を子どもたちは垂直に手を挙げて発言し、学んでいる姿を見て個の学びの凄さを感じました。

教育といえば、平らに引き上げるイメージがありましたが、それぞれの子どものに合った良さを伸ばしていく中で、特別支援の子たちも含めてすべての子どもたちがそういった学びの場の中で自分を伸ばしていけばと感じました。

#### ○市長

沢山のご意見ありがとうございます。

これで意見交換を終了します。

議事を事務局にお返しします。

○学校教育課長

これで総合教育会議を閉じます。